

JECの流れ(神学)の
継承・深化・発展の最良の手段
としてのエリクソンの「キリスト教神学」
各論 : JECの聖化論について

エリクソン博士をお迎えしての
「JEC拡大教職者会」レジュメ
関西学院会館:2003.3.11
一宮基督教研究所:安黒務

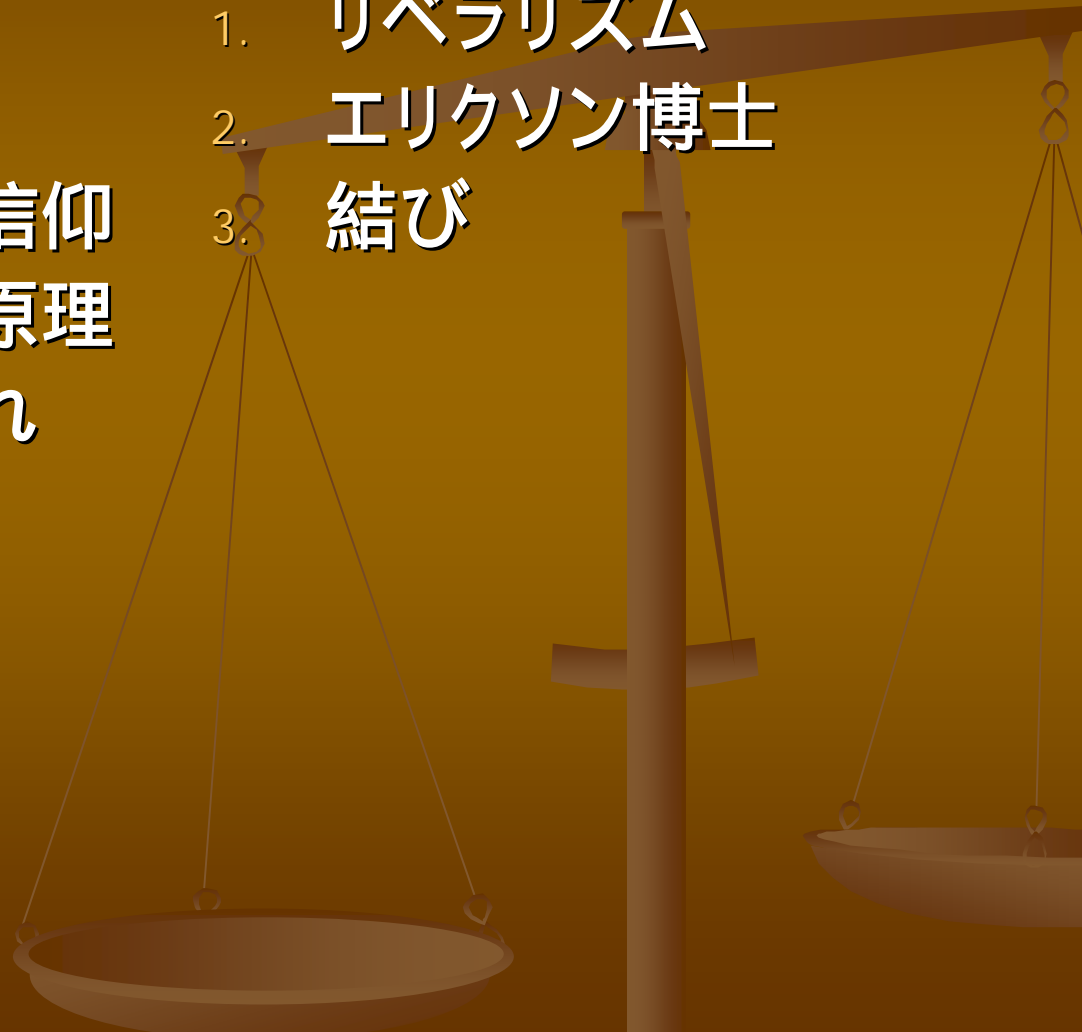
歴史的ルーツと連続性

1. 聖書と聖霊さえあれば、過去と無関係？
2. キリスト教遺産の豊かさを見失う
3. キリスト教遺産の回復の要請
4. 教会の歴史 - 聖書に従って教会を改革しようとする福音主義的衝動
5. 福音が聖霊の働きによって解き明かされた
6. 聖書の示している福音の枠を守りつつ
7. 他の時代や他のもろもろの運動から学び取る
8. 福音の全体的意味・十全な意味で福音主義的


歴史神学の視点からみたJEC

1. 三つの要素
2. 使徒的キリスト教
3. 古代教会の正統信仰
4. 宗教改革の三大原理
5. 改革の四つの流れ
6. 信条
7. 正統主義神学
8. 敬虔主義の遺産
9. 自由教会

1. リベラリズム
2. エリクソン博士
3. 結び



組織神学の視点からみたJEC

1. 神学方法論
 2. 聖書論
 3. 神論
 4. 人間論
 5. キリスト論
 6. 聖霊論...ペンテコステ・カリスマ的強調
 7. 救済論...ケズィック・ホーリネス的強調
 8. 教会論...バプテスト的強調
 9. 終末論...プレミレニアニズムの理解
- 

エリクソンの聖化論

「第34章 救いの継続と完成」

第1節 聖化

- 序：御子のかたちと同じ姿に、変貌、完成へ
- 1. 聖化の意味：二つの意味
 - 1. 日常の使用から特別な目的に聖別される立場：神に属する者とされた客観的立場
 - 2. 道徳的善良さ：プロセス、程度、内的人格に関する聖霊の主観のみわざ
- 2. 聖化の特徴
 - 1. 人間的改良ではなく、超自然のみわざ
 - 2. 漸進的な神のみわざ：継続の意味の動詞の使用
 - 3. 目標：キリストご自身の似姿
 - 4. 聖霊の働きである：御霊にある生活、御霊の実、御霊によって...
 - 5. 完全に受身ではない：神律的相互性、神律的共働性の領域
- 3. 聖化：完全あるいは不完全？
 - 1. 地上での完成、罪を犯さない地点に到達しうるのか？
 - 2. 「全き聖化」を呼びかける箇所が存在
 - 3. ローマ七章におけるパウロの経験
 - 4. 罪の性質の吟味
 - 5. 求められている「完全さ」の性質とは？
 - 6. 「罪を犯さない状態」は目標であるが、この地上で到達はできない
 - 7. ヨハネ3:4-6 は常習的に罪を犯すことについての言及

菅神学生論文

エリクソン神学を座標軸にして 我喜屋神学とウェスレアン神学の比較研究：序

■ 序：エリクソン神学を座標軸とする理由

1. 自教派的解釈に盲目的に走らず
2. 他の代表的神学の評価を公平に扱い
3. 自陣も含めて、客観的に長所、短所、特徴を抽出し
4. 福音派の共同性に関わる共通部分を決定し
5. 枝葉の理論を派生させている
6. ゆえに、公平さにおいて信頼感がある

菅神学生論文：エリクソン神学を座標軸にして 我喜屋神学とウェスレアン神学の比較：概要

- 序
- 1. 福音主義神学における聖化の定義
 - 1. 聖化の意味： 地位的聖化、 実質的聖化
 - 2. 聖化の特徴： 神のみわざとしての聖化、 その継続性、 聖化の目標、 聖霊の働き、 律的相互性、 神
 - 3. 結び：「聖化とは何か？」
 - 4. 聖化に関する二つの立場：「完全」あるいは「不完全」か？
- 2. 「完全」肯定論としてのウェスレーの聖化論
 - 1. その神学：「キリスト者の完全」、「聖霊のあかし」の教理
 - 2. ウェスレアン聖化論への評価と問題提起： 評価、 問題提起
- 3. 我喜屋光雄師の聖化論
 - 1. 我喜屋「聖化論」の輪郭： メッセージ、 神学的位置づけ
 - 2. 我喜屋「聖化論」への評価と問題提起： 評価、 問題提起
- 4. 結論
 - 1. 発見
 - 2. 自分の「聖化」観への影響
- 資料・参考文献(各章末にも配置)
- 終りに